



# 池島魂



教育目標 「愛顔でより良い未来に向かって努力する子供の育成」

文責：校長



**あなたの「心」はどこにありますか？**

**「人」と「人」の「間」に「心(心遣い)」を**



「自分と同じでないものを許さない・・・、そうした差別こそ戦争につながるのではないのでしょうか。おそろしいのは、おおかたの人が自分でも知らないうちに加害者になっている、またなり得ることではないでしょうか。」

先日の中学生の読み聞かせで、この言葉がたいへん印象に残りました。私たち一人一人、生活環境や健康状態、それに応じて生きていくために背負っているものはそれぞれ違います。

児童生徒だけでなく、私たち大人もそのような社会の中で平和的に、よりよく生きていくためにどう言動していくことがベストなのかを考えさせてくれる言葉と思います。

人間は、一人では生きていけないとよく言われますし、実際学校の中でも、社会の中でも人との関わり合いを通して、よりよく生きていけてこそ人間です。「人間」という文字は、「人」の「間」と書いてできています。そう考えると、人との間がうまくいってこそ人間であると言えるのです。

人との間がうまくいくためには、「人」と「人」の間に「心」(心遣い：**プラスの言動、周りを活かす言動**)を入れながら、よりよい人間関係づくりの構築こうちくが大切です。

ですから、互いのよいところは認め合い、助け合う心を育む必要があるわけです。このことは、どのような差別もしない、させない人間尊重の精神を育てることにもつながります。

その心とそれに伴う所作しよさ（言葉・行動ことば）は、学校教育だけでなく、日常の家庭教育の中でも育てられます。

日常生活の中の人と人の間に、いつも人を責める言葉、批判の言葉があったらどうでしょう？ 人と人の間に、あいさつもなく、時間も守れない、自分の役割も果たせない言動があったらどうでしょう？ 当然、いい人間関係はつくれませんし、将来社会でよりよく生きていけるのか心配です。人と人の間に、お互いのよいところを認め、相手の立場に立って理解するようなあたたかい言葉や行動が、人を愛する心を育てます。

学校でも家庭でも・・・大人も子どもも・・・

「ありがとうをたくさん言う」 「日本一のあいさつをする」

「時間を守る」 「自分の役割を果たす」

「困り感を察しながら、あたたかい言葉や行動を心がける」

などを心がけ&感謝神経をはたらかせ、人と人の間に心を、プラスの言動を積極的に入れていくことでよりよい人間関係をつくり、自分を成長させていきたいですね！

保護者のみな様、ご参観ありがとうございました！

1 【互いの理解を深める】  
スタンプラリーに挑戦



2 【問題に関わる】  
WinWin腕相撲



3 【対立を解消する】  
泣いている友だちの  
力になろう





